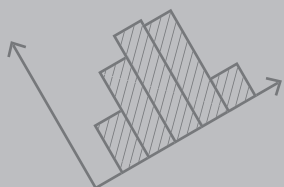
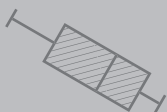


統計プレゼンテーション



来春、Studyaid D.B. プレゼンテーションシステムに
統計ツールが搭載^{*}されます。
今回はその統計ツールについてご紹介します。

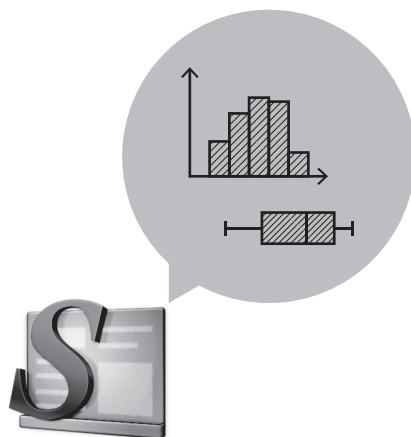


プレゼンテーション用の統計ツールについて

プレゼンテーションシステムの統計ツールは、
授業中に使用することを想定した以下のよう
な特長があります。

- 1.入力したデータから、統計グラフ・表を
その場で表示できる
- 2.2つの統計グラフ・表を並べて
比較できる

これらを利用して、例えば右ページのような
授業を考えてみました。皆様のヒントになれば幸いです。



^{*}弊社のホームページ (<http://www.chart.co.jp/stdb/sugaku/download>) から、アップデートが可能になる予定です。

身近な話題と実体験を題材に

今年の夏も暑く、埼玉県熊谷市では5年ぶりに日本最高気温を更新した。
特に8月の昼間は年々暑くなっているように感じるが、実際はどのようだろうか？
30年前、20年前、10年前はどうだったのであろうか…

データを入力 → その場で箱ひげ図に

1988～2018年までの8月の東京の最高気温31日分を10年ごとに入力します
(図1右側)。

そうすると、そのデータを元にしたグラフや表が表示されます(同左側)。
今回は4つの箱ひげ図を表示しています。
これをみると各年の中央値より上の部分は、上昇傾向にあることがわかります。

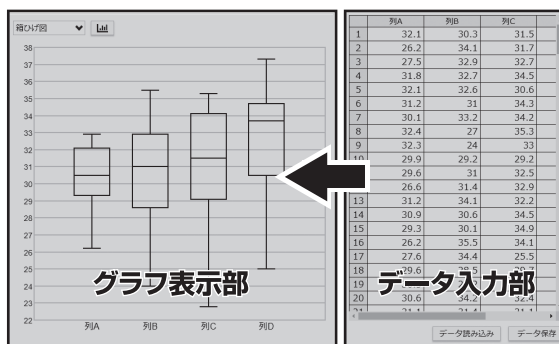


図1：データを入力するとグラフが表示される※
中央値や最大値などの上昇が可視化される

2つのヒストグラムを並べて比較

次に、データ入力部を非表示にし、画面を縦2分割にする機能を用いて、1998年(図2左側)と2018年(同右側)のヒストグラムを表示するように設定します。
さらに、階級の設定を行います。始めを25.0、終わりを37.5、幅を2.5にします。
すると、30℃以上の日の割合が多くなっており、特に猛暑日は1998年では0日ですが、2018年は7日もあることがわかります。

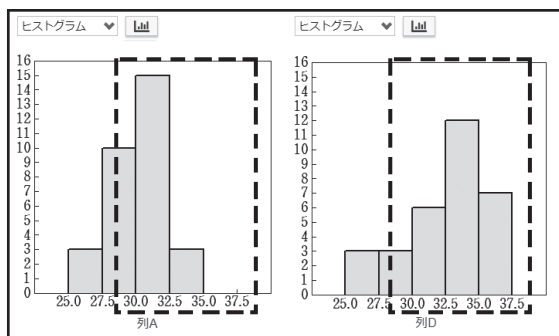


図2：左側と右側で別々のヒストグラムを表示※
気温の高い日が多いことがわかる

このように、なんとなく年々暑くなっているように感じていたことが、統計ツールを使うことで視覚的に裏付けをとることができました。

※プレゼンテーションシステムに搭載される統計ツールは現在開発中のため、仕様や画面は予告なく変更することがあります。

おまけ：プリント作成システムの統計機能について

プリント作成システムにも統計機能があります。こちらでも統計グラフ・表を作ることができますので、その方法をかけ足でおさらいします。

まずは【文章】タブの【統計】ボタンをクリックし、作りたいものの種類を選びます（図3）。

統計グラフ・表を作成するための画面が現れるので（図4）画面の指示に従って必要な情報を入力します。

一度作った統計グラフ・表は、後から修正もできますし、代表値の出力や、別の統計グラフ・表を派生して作ることもできます（図5）。

こちらの機能も、プレゼンテーションシステムの統計ツールと併せてご利用ください。



図3：内容編集に入ると【文章】タブがあらわれる



図4：作成はたったの3ステップ

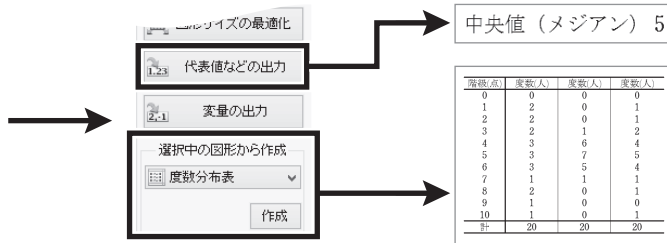
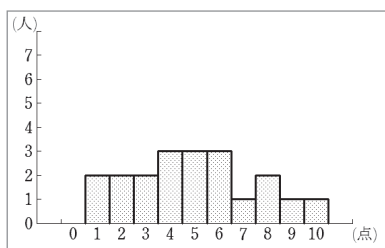


図5：ガイドメニューから代表値や他のグラフを派生させることが可能